

西大芦地区

| | | | | | | | | |
|----|---|------|---|------|---|------|-----|-------|
| 人口 | 男 | 312人 | 女 | 368人 | 計 | 680人 | 世帯数 | 298世帯 |
|----|---|------|---|------|---|------|-----|-------|

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

《事業概要【分野】と主な支出内容》

① 宅配弁当および農村食堂運営事業【福祉】

高齢者世帯や独居老人に宅配する弁当を作る。

地元特産品を使った仮設の農村食堂を試行的に開設する

ふるさとづくり協議会等主催の生涯学習事業の会場として活用する

施設賃借料、光熱水費、消耗品費、

② 大芦川流域活用事業【観光】

旧西大芦小学校校庭に「川遊び駐車場」を開設し、ごみ放置や迷惑駐車などの環境維持対策に取り組む。大芦川流域資源の掘り起こし、地区の内外の人に知らせ、交流する。

環境保護のため、川遊び客用のトイレを管理する。

駐車場用地賃借料、流域資源案内看板設置、テント2張り

③ 農産物市事業【農業】

高齢者世帯や独居老人地元農産物や特産品の展示や直売を行う。地域住民のふれあいの場所づくりをする。鹿沼南高校の生徒等、農作物を通じた交流の機会を作る。ふるさとづくり協議会等主催の生涯学習事業の会場として活用する。ふるさと農園の管理運営の協力をする。

のぼり旗、電気柵、パソコン、耕運機、倉庫兼直売所整備工事

《収支決算》

【収入(円)】

| 費目 | H29 | H30 | H31/R1 | R2 | R3 | 計 |
|---------|---------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|
| 地域の夢補助金 | 600,000 | 1,739,118 | 1,727,779 | 2,431,607 | 3,660,230 | 10,158,734 |
| その他補助金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 自己資金 | 0 | 13,588 | 3,476,309 | 7,910,235 | 323,872 | 11,724,004 |
| 計 | 600,000 | 1,752,706 | 5,204,088 | 10,341,842 | 3,984,102 | 21,882,738 |

【支出(円)】

| 事業No | H29 | H30 | H31/R1 | R2 | R3 | 計 |
|------|---------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|
| 事業① | — | 791,026 | 3,281,812 | 4,113,241 | 965,102 | 9,151,181 |
| 事業② | 600,000 | 961,680 | 1,885,163 | 4,283,873 | 632,399 | 8,363,115 |
| 事業③ | — | — | 37,113 | 1,944,728 | 2,386,601 | 4,368,442 |
| 計 | 600,000 | 1,752,706 | 5,204,088 | 10,341,842 | 3,984,102 | 21,882,738 |

《事業への取り組みを振り返って》

(1) 宅配弁当および農村食堂運営事業

高齢化率約50%、独居老人や高齢者世帯が増す中、見守りも併せて始めた弁当の宅配は、7人の素人主婦が試行錯誤しながら「お母さんの味」を届けようとスタートした。当初は約90食の弁当が配達時間までに出来上がらず、配達スタッフがヤキモキすることもあったが、今は約120食を配達時間前に仕上げるようになり、手際よくこなし味も多くの人に喜んでいただけるようになった。

お年寄りは週1回の弁当を楽しみに待っていてくれるだけでなく、配達に来るスタッフとのコミュニケーションが楽しみで、笑顔で迎えてくれる。その笑顔からスタッフは元気をもらい、活動のエネルギーとなっている。また、配達時にお年寄りの様子がいつもと違うことに気付き、登録してある家族に連絡して来ていただいたことが何回かあった。大事には至らなかったことが何よりも嬉しい。

また、高齢者に喜んでもらえる内容にするために、毎月献立会議で議論を重ねてきた。特にマンネリ化しないように常に新しいメニューを開発したり、仕入れの工夫をしたりした。更により安全な弁当を届けるために保健所の指導や研修会への参加も怠らなかった。

最近はいろいろな団体や会社、学校などからの特別弁当依頼も受注するようになったり、毎月開催の西大芦農産物市で焼きそばや総菜の販売を始めたりするなど、収益アップを狙って経営を安定化させる努力をしている。

まったく経験も資金も無い素人団体が始めた事業を、物心両面から支えてくださった市の関係者と「地域の夢実現事業」というサポート事業には感謝の一言に尽きる。

もう一つの西大芦特産品を活用した農村食堂の開店は大きな目標であり、地域住民のふれあいの場としてまた訪れる観光客等との交流の場として実施したいが、スタッフ不足や新型コロナ禍中での経営不安等の課題も多く、更なる検討をしていきたい。

(2) 大芦川流域活用事業

旧小学校前の県道が水遊び客の迷惑駐車であらゆる交通に支障をきたしている状況を改善しようと始めた駐車場事業だが、「地域の夢実現事業」によって大芦川流域の環境保全への取組と流域の歴史等資源の掘り起こし、及び看板の設置ができた。

Web ホームページ「清流の郷にしおおし～西大芦の川遊びガイド」を開設して川遊びマナーやお願い事、駐車場の開設情報等を発信してきた。併せて川遊び場所での利用者へのアナウンスやごみの処理、トイレの管理を行うことで、旧小学校付近の環境が改善するとともに家族単位のマナーを守る水遊び客が増加した。しかし、他の場所では外国人や傍若無人な若者の迷惑駐車、ごみ放置、糞尿の問題が大きな課題となってきたため、令和3年度より東大芦地区と共同での大芦川創生事業がスタートしたことは大変ありがたい。

駐車場事業は収益が天候に左右されるため、補助事業終了後の経営面での不安定さや、高齢者のスタッフが炎天下の校庭で一日中働かなければならないという過酷さ、またスタッフ不足も今後の課題である。

次に、西大芦地区は過疎化・高齢化・少子化が急速に進んだために、祭などが簡略化されたり廃止されたりしてきた。また地区内史跡等についても説明できる人がいなくなってきた。そのため、観光客のみならず地元住民にも地区内の歴史・文化を知ってもらうことが必要と考え、毎年5～6カ所、計22カ所に案内板や説明看板を設置してきた。日頃から見慣れていた社寺や学校跡地などであるが、改めて看板に目を通す住民も増え、県外ナンバーの車が停まって看板を見ている姿も見かける。特に地元で育つ若者に地元の歴史・文化を伝えていくことができるのではないかと大いに期待している。今後はこれまで集めた資料を基に、冊子にまとめたり看板設置場所を地図に落としたパンフレットを作成したりして、多くの人々に手にしていただけるよう工夫していきたいと考えている。

(3) 西大芦農産物市開催事業

昔はたくさんあった商店も、今は日用品を買えるお店は1店舗になった。そんな地域で暮らす地域住民、特に高齢者は買い物難民と言っても過言ではない状況にある。そんな住民の役に立ちたい。また大芦川流域に沿って成る西大芦地区は東西に細長い地域であるため、地域の人々が会う機会も少なく、みんなが集える場所をつくりたいとの思いから農産物市を学校跡地で開催しようとした事業である。始まった当時は新型コロナの心配もなく、買い物をした住民が用意したテーブルを囲みお茶を飲みながら談笑する姿にほっこりした思いが懐かしい。

この事業で最も苦労したことは開催会場の準備と後片付けである。2年数か月間はテントを立てて会場を準備した。会場づくりに多くに人手がかかる他に風雨にも悩まされた。その後、廃校の一輪車置き場の屋根を利用しようということになったが、狭すぎるためにみんなで協力して下屋を増設した。会場の準備には苦労が多かったが、これらの課題を解決するたびにメンバーの団結力が強くなっていったことは嬉しかった。

また、地区内では農業を営む人が少なくなり十分な品数が集められなかった。そこで隣接する東大芦地区の生産者に出荷を依頼して野菜を集めてきたり、市東部や日光市の知り合いの農家にも協力をしてもらい集荷して来たりして、地域の人々の需要に応えようとするスタッフの奉仕の精神と意気込みには敬服した。

スタート時の会計は電卓をたたき、決算も商品から取り外した値札を出荷者毎に分類し、電卓をたたいて出荷者に売上金を払っていたが、労力もかかるし計算ミスも出てしまう。レジが欲しいという声が上がリ、調べると農産物直売に使えるレジは100万円もする上に毎年のメンテナンス費用も生じる。そのため購入をあきらめ、パソコンでプログラムして会計レジを工夫した。メンバーがメンテナンスを行えるパソコンレジは大変ありがたい存在である。

そして、最後の“地域の夢実現事業”として、店舗の建設を計画し承認いただき、今年1月にオープンできたことに会員一同感謝と喜びにあふれていた。予算不足から電気工事は後日メンバーの中の電気工事士が蛍光灯と換気扇を取り付け、交代で持ち寄った発電機をつないで使うなど、節約した取り組みをしている。会場づくりに苦労し風雪雨に悩まされた2年9か月だったが、これからは安心して開催できることに感謝している。そして新型コロナウィルス感染症が終息し、地域住民のみならず観光客などとの交流の場として、多くの人々が集い活気に満ちる日が来ることを待ち望んでいる。

最後に、農産物市開催日の10日前に必ず会議を行い、実施方法や出荷物の打合せをしたり、その時々課題について議論したりして改善してきた。毎回、課題解決に向けた建設的な意見が出され、活気に満ちていた。大工や、鉄骨プレハブ業者、電気工事士、パソコンに精通している人等がそれぞれの特技を生かし、メンバーがそれを手伝って取り組むことで、会員の団結力が益々強くなっていったように思う。

地区外からの作物搬入者が開店準備をしている私たちを見て、帰宅後家族に「西大芦農産物市のスタッフはすごく生き生きとしていた。」と語っていたと伝え聞いた。そう見えたことに喜びと誇りを感じる。



川遊び駐車場



史跡案内板



お弁当と思いやりを届けます



ふるさと農園の風景



子どもたちも頑張りました



地域の思いが詰まった新しい直売所

加蘇地区

| | | | | | | | | |
|----|---|------|---|------|---|--------|-----|-------|
| 人口 | 男 | 850人 | 女 | 853人 | 計 | 1,703人 | 世帯数 | 634世帯 |
|----|---|------|---|------|---|--------|-----|-------|

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

≪事業概要【分野】と主な支出内容≫

① 防犯カメラ設置事業【防犯】

防犯カメラを設置し、児童生徒の登下校時の安全確保や不法投棄を防ぎ、地区内の安全を確保する。

防犯カメラ設置(6基)

② 加蘇地区観光 PR 事業【観光】

- ・石裂山登山道入り口のトイレを水洗化し、地域の観光拠点の一つとして活性化を図る。
- ・スタンプラリーイベントの開催、観光資源・イベント情報等を積極的に発信し、交流人口増を図る。

トイレ整備…トイレ水洗化、浄化槽清掃、定期的な清掃消耗品補充、周辺の除草

観光 PR…パンフレット作成、イベントの企画実施、地域の観光情報の発信

≪収支決算≫

【収入(円)】

| 費目 | H29 | H30 | H31/R1 | R2 | R3 | 計 |
|---------|-----|-----------|---------|---------|---------|-----------|
| 地域の夢補助金 | — | 7,395,085 | 519,235 | 168,618 | 119,112 | 8,202,050 |
| その他補助金 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 自己資金 | — | 0 | 106,620 | 0 | 0 | 106,620 |
| 計 | — | 7,395,085 | 679,855 | 168,618 | 119,112 | 8,362,670 |

【支出(円)】

| 事業 No | H29 | H30 | H31/R1 | R2 | R3 | 計 |
|-------|-----|-----------|---------|---------|---------|-----------|
| 事業① | — | 3,871,800 | 54,927 | 51,966 | 53,828 | 4,032,521 |
| 事業② | — | 3,523,285 | 624,928 | 116,652 | 65,284 | 4,330,149 |
| 計 | — | 7,395,085 | 679,855 | 168,618 | 119,112 | 8,362,670 |

《事業への取り組みを振り返って》

加蘇地区ではコミュニティ推進協議会のメンバーが中心となり「地域の夢実現事業」の活用を検討するアイデア会議を開催しました。アイデア会議と併せて地区住民へアンケートを実施し地域課題の洗い出しを行いました。その中から以下2つの事業を決定し取り組みました。

① 防犯カメラ設置事業【防犯】

加蘇地区ではこれまでも地区住民が児童生徒の登下校時の見守り、防犯パトロール活動等を実施してきました。しかし人口減少、過疎化により「人の目」が減少し、また近年山間部への不法投棄が増加するなど地域の安全を脅かす状況が生まれていました。

設置場所の選定、事業者へのヒアリング、運用規定策定を経て、地区内の主要な交差点 6 か所に防犯カメラを設置しました。設置後は加蘇地区防犯協会が「防犯カメラ稼働中」立て看板を作成し、カメラ設置の効果を高めたり、カメラ周辺の除草を行う等維持管理に努めています。

この事業への取り組みは、警察の捜査へデータ提供等、地区内の犯罪発生抑止に一定の効果があったと思われる、今後はカメラの保守点検、電気料等を加蘇地区防犯協会で確保し維持管理していく予定です。

② 加蘇地区観光 PR 事業【観光】

・加蘇山神社トイレ水洗化、維持管理

石裂山登山や神社参拝で当地を訪れる観光客が快適にトイレを利用できるよう水洗化を実施しました。併せてどのようにトイレの快適さを維持するか検討をしました。

現在、加蘇地区ふるさとづくり協議会のメンバーが定期的に清掃、消耗品の補充、マナーポスターの掲示、トイレ周辺の除草等を行っています。またトイレと隣接し観光案内、周辺地図の看板が設置されており石裂山観光の拠点として今後も維持管理を継続していきます。



加蘇山神社トイレ(外観)



加蘇山神社トイレ(外観)

・観光PR

当初は交流人口増を目指し、パンフレット作成、イベント開催を計画していましたが、コロナウィルス感染症拡大のため事業の中止、大幅な変更を余儀なくされました。事業の実施団体である加蘇地区ふるさとづくり協議会は、事業の中止期間を活動のブラッシュアップ期間ととらえアフターコロナを見据えた観光PR事業を模索することになりました。



「ふるさと発見グリーン・ツーリズム入門塾」に参加

令和2年10月27日



鹿沼南高校のサツマイモの収穫実習に協力

令和3年10月21日

まず栃木県の「農村ファン活躍支援モデル事業」のモデル地区の指定をうけ NPO トチギ環境未来基地の支援をいただきながら、ワークショップ、課題の洗い出し等を行いました。会員から情報発信力の弱さに対する指摘があり、令和3年度には Facebook 活用講座を開催しました。同時に下久我地内の耕作放棄地を他地区からのボランティアを受け入れながら再生する活動を開始しました。

また鹿沼南高校の「ふるさと発見グリーン・ツーリズム入門塾」に協力し、会員も参加してグリーン・ツーリズムを学び、ワークショップやイベントの企画実習を行いました。南高校との交流は令和3年度も続き下久我地内でサツマイモの定植、収穫実習を実施しています。生徒たちが生き生きとした表情で農作業をしたり、学生やボランティアと一緒に汗を流し耕作放棄地の草刈りを手伝う姿は、会員にも新鮮な驚きを与えたようです。



下久我地内の耕作放棄地の再生（令和3年度）

このような活動を通し、会員の間では地区の豊かな自然の中での里山保全活動や農作業体験に価値を見出し、都市住民との交流や地域活性化に繋げることができないか方策を探る動きが始まっています。当地区はいわゆる目玉となる観光資源が乏しく、観光スポットを周遊したり、グルメを提供する一般的な観光にはあまり適していません。今後は単に一過性のイベントを企画するのではなく、参加者や関係者とのつながりを重視し、当地区のファンになってもらい継続的な交流を生み出す活動を展開したいと考えています。



とちぎ農村QUEST動画作成

令和3年6月6日



干し芋づくりイベント

令和3年12月19日

令和4年度以降は、里山保全活動によって蘇った耕作放棄地(仮称 カソトモの森)を交流スペースとして整備し活用していく予定です。子どもたちが森で楽しく遊べるプログラムの開発、育てた農作物を使ったイベントの企画、現在建設中の南摩ダムや周辺環境を観光資源として当地の活性化に活かしていけないか等、様々なアイデアが検討されています。またSNSの活用、栃木県が運営する「農村」と「人」をマッチングするサイト「TUNAGU」への参画等で地域の魅力や協議会の活動を積極的に発信していきます。

コロナ禍により当初の計画通りに事業が実施できませんでしたが、「地域の夢実現事業」で観光PR事業に取り組んだ結果、住民が加蘇地区の魅力や可能性を再発見することができました。また将来地域づくりの担い手となる会員のモチベーションを保ち、協議会の質を向上させることができました。今後は里山保全活動や農作業体験をグリーン・ツーリズムとして発信し、当初の目的である交流人口の増加に繋げていきたいと考えています。

北犬飼地区

| | | | | | | | | |
|----|---|--------|---|--------|---|--------|-----|---------|
| 人口 | 男 | 4,708人 | 女 | 4,602人 | 計 | 9,310人 | 世帯数 | 3,601世帯 |
|----|---|--------|---|--------|---|--------|-----|---------|

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

≪事業概要【分野】と主な支出内容≫

① 安全安心なまちづくり事業【防犯・交通安全】

防犯ちらし(グッズ)の配付、防犯クイズキャンペーンの実施、交通安全活動備品の購入通学路上の防犯灯設置、主要道路の防犯カメラの設置など。

防犯啓発ちらし・グッズ(2,600部)、防犯クイズキャンペーンちらし・賞品、交通安全活動ベスト・ジャンパー(70着)、交通安全立て看板(79個)、LED防犯灯(6基)、防犯カメラ(3基)など

② 地域交流活動支援事業【イベント】

地域の2大イベントである「ふれあい祭」「マス釣り大会」の備品を購入することにより、地域の交流活動の支援を行う。

(令和2・3年度は、新型コロナウイルスの影響により開催できなかった。)

テント(4張)、アルミテーブル(26台)展示パネル(15枚)、焼きそば調理設備(1台)など

③ 学校と地域の交流応援事業【お囃子活動】

地域の3小学校(石川小・池ノ森小・津田小)において、櫓やお囃子の篠笛・締太鼓などの備品を購入することにより、地域住民から指導をうけている“お囃子”の活動強化など学校と地域の交流を支援する。

盆踊り櫓(1基)、篠笛(25本)、締太鼓(2台)など

④ 地域助け合い事業【行方不明者捜索・弁当配達】

地区の老人クラブが中心となり、行方不明者初期捜索をするための組織「地域を守る絆の会」を構築するため、反射ベスト、懐中電灯などの必要備品を購入する。

また、一人暮らしなどの高齢者に衛生的にお弁当配達し、安否確認や交流を行うために、アルミ飯缶を購入する。

反射ベスト(50着)、赤色誘導棒(50本)、懐中電灯(50個)、アルミ飯缶(10個)など

⑤ 地域資源活用事業【里山整備・カレンダー作製】

里山林整備事業として、「津田の里山を育てる会」を組織し、約2.8ヘクタールの荒れた山林を地域の人々の憩いの場となるように整備するため、自走式草刈り機やウィンチ、コンテナ等の備品を購入する。

また、北犬飼地区コミュニティ推進協議会において、“北犬飼地区いいところ再発見カレンダー”フォトコンテストを開催し、地域資源を被写体とした写真を募集し、カレンダーにすることによって地域のPRを行う。

自走式草刈り機(1台)、ウィンチ(1台)、コンテナ(1台)、ブロワー(1台)、「北犬飼地区いいところ再発見カレンダー」作製(2,800部)など

《収支決算》

【収入(円)】

| 費目 | H29 | H30 | H31/R1 | R2 | R3 | 計 |
|---------|-----|-----|-----------|-----------|-----------|------------|
| 地域の夢補助金 | — | — | 1,039,350 | 4,487,500 | 4,774,760 | 10,301,610 |
| その他補助金 | — | — | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 自己資金 | — | — | 0 | 4,555 | 21,651 | 26,206 |
| 計 | — | — | 1,039,350 | 4,492,055 | 4,796,411 | 10,327,816 |

【支出(円)】

| 事業 No | H29 | H30 | H31/R1 | R2 | R3 | 計 |
|-------|-----|-----|-----------|-----------|-----------|------------|
| 事業① | — | — | 1,039,350 | 1,717,578 | 2,200,022 | 4,956,950 |
| 事業② | — | — | — | 1,831,965 | 0 | 1,831,965 |
| 事業③ | — | — | — | 942,512 | 250,000 | 1,192,512 |
| 事業④ | — | — | — | — | 450,273 | 450,273 |
| 事業⑤ | — | — | — | — | 1,896,116 | 1,896,116 |
| 計 | — | — | 1,039,350 | 4,492,055 | 4,796,411 | 10,327,816 |

《事業への取り組みを振り返って》

安全安心まちづくり事業については 防犯ちらし(グッズ)の配付や防犯クイズキャンペーンの実施、主要道路への防犯カメラ設置などにより、防犯意識や環境の向上を図りました。

また、本地区は交通量が多いため、交通安全協会などのベスト・ジャンパーを更新し交通安全街頭啓発活動を行ったほか、自治会・交通安全協会・警察の協力のもと、地区内79か所に交通安全啓発看板を設置することにより、交通安全意識を向上することができました。



↑防犯クイズキャンペーンチラシ
 ↖通学路等での交通安全街頭啓発活動
 ←ベスト・交通安全啓発看板

地域交流活動支援事業については、地域の2大イベントである「ふれあい祭」「マス釣り大会」の備品を購入し、地域の交流活動を支援する計画でありましたが、令和2・3年度ともに、新型コロナウイルスの影響により開催することができませんでした。

来年度以降、積極的に活用し、地域への愛着をふかめられるような活動を実施していきます。



ふれあい祭り



マス釣り大会

学校と地域の交流応援事業については、石川小学校・池ノ森小学校・津田小学校において、櫓やお囃子の篠笛・締太鼓などの備品を購入しました。

石川小学校においては、新型コロナウイルスの影響により夏祭りを行うことができませんでしたが、地域住民と児童が設置した櫓にイルミネーションを点灯させる活動を行いました。「地域の賑わいづくりができたほか、児童との交流をふかめることができて楽しかった。」との声もありました。

池ノ森小学校では、購入した物品を使って、児童が地域住民から指導を受けながらのお囃子練習や農業体験活動を行うことにより、地域住民との交流を深めることができました。

津田小学校では、新型コロナウイルスの影響により、予定していた地域住民による「半田良平」学習会や高齢者との清掃活動は見送りとなりましたが、地域住民から指導を受けながらお囃子活動を行うなど地域との交流を図りました。



石川小



池ノ森小



津田小

地域助け合い事業については、反射ベスト、懐中電灯などの必要備品を購入し、地区の老人クラブが中心となり、行方不明者の初期捜索を行う組織「地域を守る絆の会」を発足させることができました。

また、地区福祉活動推進協議会が行っている「にこにこ弁当事業」においては、アルミ飯缶を購入することにより、一人暮らしなどの高齢者に衛生的にお弁当配達し、安否確認や交流を行うことにより地域の助け合いをより高めました。



購入したアルミ飯缶

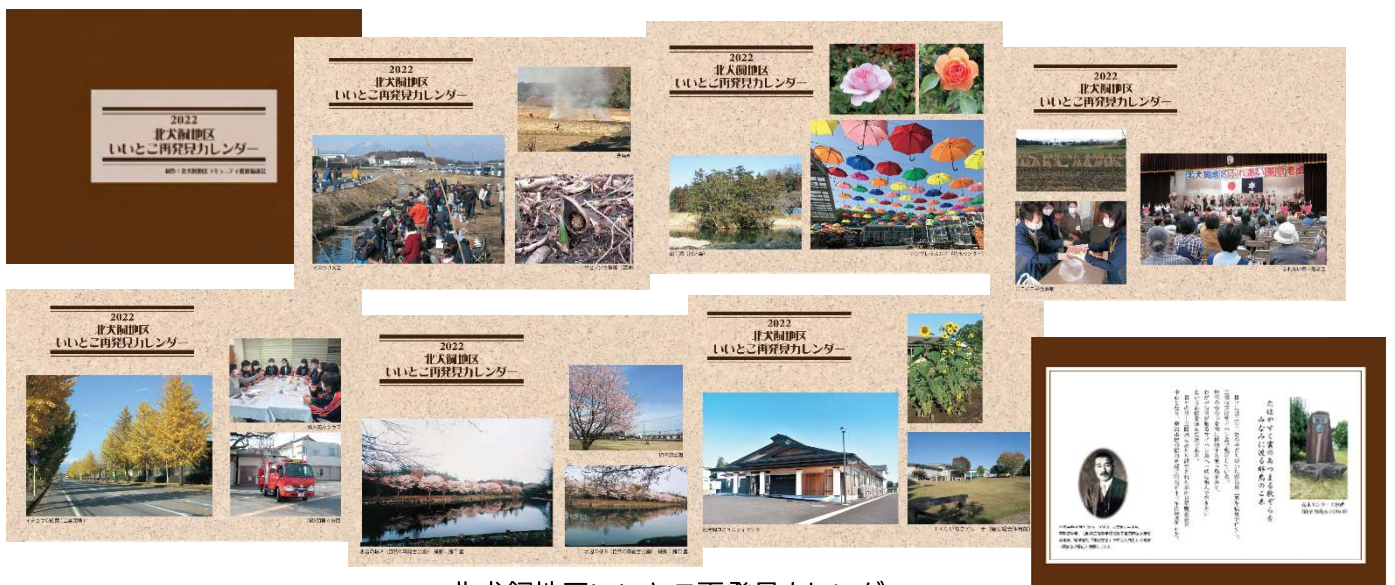


「地域を守る絆の会」のイメージ図

地域資源活用事業については、里山林整備事業として、「津田の里山を育てる会」を組織し、購入した自走式草刈り機やウィンチ、コンテナなどを活用しながら、約2.8ヘクタールの荒れた山林の再生に取り組んでいます。「後世によい里山を引き継ぐため、がんばっていきたい。」などの声もあり、子ども達の郷土愛が育ち、地域の人々の憩いの場となるような里山として活用することを目指しています。

また、北犬飼地区コミュニティ推進協議会においては、「北犬飼地区いいとこ再発見カレンダー」フォトコンテストを開催し、地区の地域資源を被写体とした写真を募集しました。

さらに、その写真を用いたカレンダーを作製し配付することによって、北犬飼地区のPRを行いました。「(配付されたカレンダーをみて)北犬飼地区の良さを改めて再認識することができました。」との感想もいただきました。



北犬飼地区いいとこ再発見カレンダー

南摩地区

| | | | | | | | | |
|----|---|--------|---|--------|---|--------|-----|---------|
| 人口 | 男 | 1,393人 | 女 | 1,405人 | 計 | 2,798人 | 世帯数 | 1,010世帯 |
|----|---|--------|---|--------|---|--------|-----|---------|

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

《事業概要【分野】と主な支出内容》

① 高齢者住環境美化支援事業 【福祉】

高齢者宅の住環境美化支援を低料金で行うことで、安心して暮らせる地域づくりに取り組む。

バリカン、チェーンソー、粉砕機、防護服、チェーンソー等講習、傷害保険、倉庫賃貸料

② なんま野菜の給食プロジェクト事業 【農業】

学校給食の地産地消化、自産自消化を通して子供たちの健やかな心身を育む。

播種機、種苗、マルチ、軍手、デジタルカメラ、技術指導謝礼、農地賃貸料、倉庫賃貸料

③ 「なんまん」商標取得事業 【住民交流】

地域のキャラクター「なんまん」の商標権を取得することで、安心して地域の人たちが活用できるようにする。

バッチ、出願手数料、商標登録料、郵送料

④ なんまんお祭りプロジェクト事業 【住民交流】

地域の事業、イベントを通して、これからも住み続けたい、戻ってきたい南摩を実現する。

なんまん焼き機（人形・鯛焼き機）、イルミネーション、音響機器、タイル壁画部材

《収支決算》

【収入（円）】

| 費目 | H29 | H30 | H31/R1 | R2 | R3 | 計 |
|---------|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 地域の夢補助金 | — | 3,502,000 | 2,317,156 | 2,929,612 | 2,716,145 | 11,464,913 |
| その他補助金 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 自己資金 | — | 336,575 | 231,055 | 460,128 | 249,376 | 1,277,134 |
| 計 | — | 3,838,575 | 2,548,211 | 3,389,740 | 2,965,521 | 12,742,047 |

【支出（円）】

| 事業No | H29 | H30 | H31/R1 | R2 | R3 | 計 |
|------|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 事業① | — | 2,139,941 | 1,687,737 | 1,165,247 | 835,330 | 5,828,255 |
| 事業② | — | 656,735 | 269,420 | 388,044 | 86,217 | 1,400,416 |
| 事業③ | — | 139,968 | 4,733 | 141,404 | 0 | 286,105 |
| 事業④ | — | 901,931 | 586,321 | 1,695,045 | 2,043,974 | 5,227,271 |
| 計 | — | 3,838,575 | 2,548,211 | 3,389,740 | 2,965,521 | 12,742,047 |

《事業への取り組みを振り返って》

高齢者住環境美化支援事業、愛称「なんまん草刈隊いいべえ」事業報告



【事業の成り立ち】

ある高齢者のお宅で、「屋敷周りがひどいでしょう。『きれい』にしたいと思っても、この年、この体ではもう無理ですよ。朝日が入って普通のくらしが出来ればそれだけでいいんだが。」愚痴とも取れる一言がありました。

家の周りの草や、樹木をきれいにしたくとも、年齢や身体的、あるいは、経済的理由により、何ともならないで、困っている高齢者を、チームを作って支援するため、草刈隊員30名で平成30年7月に立ち上げました。

【事業の範囲等】

- ・対象者は高齢者世帯又は障がい者宅
- ・草刈の範囲は住宅敷地周辺
- ・料金は低料金



地域の夢事業拠点施設前にある看板

【活動を振り返って】

草木が繁茂する時期に依頼が集中して作業が多忙のときがありましたが、「ありがとう」「助かりました」の言葉に励まされ、ケガもなく作業をしてきました。



作業風景



なんまんヘルメット



ちょっと一休み

どんな小さな事でも、人の役に立った時の達成感はお金では味わえません。正直こんなに喜んでもらえるとは思っていませんでした。この事業を実施して良かったと思いました。

【ふたつの気づき】

- ① 「地域包括ケアシステム」の地域支援になる。
- ② 他を幸せにすることで、なんまん草刈隊員も幸せな気分になれる。

【住みよい南摩地区をめざして】

隊員の確保や、運営面などの課題はありますが、地域や家庭で困りごとがあれば、みんなで何とかしましょう。これが草刈隊チームを立ち上げるきっかけでした。

先人たちが築き上げた「南摩地区」を、お互い助け合いながらさらに住みよい地区になるよう努めていきます。



粉碎機導入

なんま野菜の給食プロジェクト、なんま夢やさいチームの事業報告



【チームの目的】

学校給食の地産地消化、自産自消化を通して、地域の子供たちの将来の選択肢を増やし、自由に生きるための後押しをする。

【目的達成のための手段】

地域の有休農地を活用し、無農薬で野菜を育てて学校給食へ供給する。

《コロナ禍以前》

農作業に地域の人々に広く加わってもらうことで目的達成への効果を高めていくことを想定し、農作業への参加者を SNS を通して募集。毎回 10 人前後の参加者が集まり、作業を行った。

《コロナ禍以後》

参加者を広く募集することが難しくなったため、対象を地元の小中学生に限定した。事業の目的に沿った取り組みへと内容を変更すべく、南摩中学校との共同事業「里山百手プロジェクト」を始めた。

【活動の振り返り】

コロナ禍という事態を受け、当初の想定された取り組みが難しくなっていました。そこで、目的に沿った内容で事業に取り組んでいくにはどうすべきか検討し、2020 年からは南摩中学校との共同事業「里山百手プロジェクト」を始めました。このプロジェクトでは、児童生徒と一緒に農作業をし、収穫物を給食で食べてもらった他、給食に使えない B 品野菜を加工して加工品や、加工品のパッケージのデザインをみんなでつくったり、その販売方法をマーケティング理論に基づいて考察したり、と、普段の学校生活ではなかなか触れられない分野の学びの機会を、それまでの活動があったからこそできる形で提供することができたと考えています。この取り組みは下野新聞に複数回掲載された他、来年度開催の関東甲信越地区中学校長会 第 74 回研究協議会埼玉大会にて、上都賀地区の代表事例として紹介される予定であり、地域の PR にもつながったと思います。



小学生と共同で行った
人参の収穫



中学生と共同で行った B 品野菜
(人参)を使ったドレッシングづくり



中学生と共同で行った
玉ねぎの皮を使った草木染

「なんまん」商標取得事業の事業報告



【事業の目的・内容】

南摩中学校発祥であり地域で愛されてきたキャラクター「なんまん」を、第三者の不当な扱いから守り、地域を愛する人たちが安心して活用できるようにするため商標権取得を目指し、令和2年6月5日に商標登録がされました。

【事業を振り返って】

商標登録がなされて以降、地域の各組織、個人、小中学校において、「なんまん」の活用が加速化され、南摩地域のシンボルとして「なんまん」が広がりつつあります。

また、「なんまん」の活用、普及を促進するための組織として地元の有志が「なんまん本舗」を立ち上げ活動を開始しました。

今後は「なんまん」の普及に合わせ、地域の活動に「なんまん」を繋げることで、地域の活動を見えやすく、また親しみやすくなるようPRを行い、地域住民が地域の活動に自分たちも参加しようと思ってもらえるよう取り組んでいきます。



商標登録証

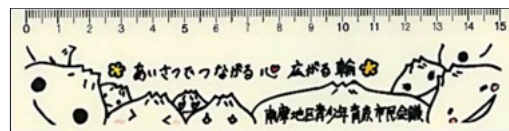
ありがとう



いいね!



南摩中学校同窓会で作成販売しているLINEスタンプの一部



南摩中学生徒がイラストを考えた定期

なんまんお祭りプロジェクト事業の事業報告



【事業の目的】

南摩地域の各種行事は、各運営団体において担い手不足が課題となっている。そこで地域の事業、イベントを通して地域への郷土愛を育み、これからも住み続けたい、戻ってきたい南摩を実現する。

【事業の内容】

「なんまん」を活用したお祭り機材の整備・活用や、なんまんグッズの作成・配布を通して、地域のシンボルキャラクターである「なんまん」や地域への親しみの創出を実現してきました。

しかしながらコロナ禍以降、各種お祭りなどの大勢集まるイベントが中止となりました。そのため、南摩中学校生徒達が考えたなんまんタイル壁画やなんまんイルミネーションの設置、南摩小学校と上南摩小学校児童達が共同でデザインしたランチマットの作成・配布。また、南摩フェスティバル代替え事業で



南摩フェスティバル



なんまんタイル壁画

ある、なんまんフォトコンテストなど、コロナ禍でも可能な事業を行うことで、「なんまん」を通じた郷土愛の醸成に努めてきました。

【事業を振り返って】

コロナ禍において多くの事業が中止となり、地域の将来を考えている人たちに、このままでは地域への思いや連帯感が廃れてしまうと、危機意識が芽生えていたと感じました。

そのような中、多くの方が何かできることを探そうとすることで、南摩ならではの地域の連帯感や、南摩を守っていきたいという意識が平時より強くなったのではないかと思います。

【最後に】

南摩地域では、地域の夢実現事業で活動している各組織が統合することで、南摩地域の地域活動を担うNPO組織となる構想が描かれています。

今年度においては、NPO構想で描かれていた、各組織が連携して地域の課題に取り組む組織として、なんまスマイル会議が発足し活動を開始したところです。

今後はこの会議を中心に、地域の各組織と連携しながら地域の課題に取り組んでいきます。



南摩小、上南摩小児童と一緒に考えたランチマット挿絵



なんまんフォトコンテスト
最優秀作品